

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島南小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は全国より高く、全体的に高い定着がみられます。特に「読むこと」「書くこと」について、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約すること、文章と図形などを結び付けるなどして必要な情報を見つけること、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、伝えるように書き表し方を工夫することがよくできています。一方で「知識及び技能」について、文中で正しい漢字を選択することはできていないものの、正しく書き直すということについては課題がみられます。
- ・算数の平均正答率は全国よりやや低く、少し課題がみられます。特に「データの活用」について、表から必要な数や条件に合った数を読み取ること、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することに弱い傾向がみられます。また、「変化と関係」について、伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさを式や言葉を用いて記述することや、逆に二つの数量が比例ではないことを式や言葉を用いて記述し説明することにも課題がみられました。
- ・全体的にどちらの教科においても「記述」「思考・判断・表現」より「知識・技能」の正答率が低い傾向が見られました。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか」「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」について高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んできましたか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「5年生までに受けた授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」について低い数値を示しています。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・漢字を正しく覚え書くということについて、宿題や自主学習での取り組みばかりではなく、日頃の学習や生活の中で積極的に書いて身につけていく目的意識をもち、取り組んでいきます。
- ・図や表の必要な情報を読み取ったり条件に合う数を読み取ったりするデータ活用の基本的な知識・技能の定着にさらに取り組んでいきます。
- ・自主・自立・自治といった自分（自分たち）で考え判断し、表現していく力をさらに伸ばす取り組みをしていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・学校の授業時間以外に普段から家庭学習(自主学習)の習慣をつけられますようお声かけをお願いします。
- ・夢や今、気になっていることなどについて、親子で会話する時間をとりましょう。